

報告事項 イ

公立鳥取環境大学と鳥取県教育委員会との意見交換会の概要について

公立鳥取環境大学と鳥取県教育委員会との意見交換会を開催しましたので、その概要について報告します。

平成30年1月25日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

- 1 日 時 平成29年12月25日(水) 16時～18時
- 2 場 所 白兔会館「ちどり」
- 3 出席者 公立鳥取環境大学：学長代行者、副理事長、副学長、環境学部長 他 計13名
 県教育委員会：教育長、教育次長、関係課長 他 計14名
 オブザーバー：鳥取市企画推進部政策企画課、県地域振興部教育・学術振興課 計3名
- 4 内 容



< 議 事 >

○県教育委員会 ●公立鳥取環境大学

(1) 高大接続改革への対応について (県教育委員会)

○鳥取県では、平成23年度から「新時代を拓く学びの創造プロジェクト」として、学力向上への取組を行っている。そして、平成28年6月に「21世紀型学力検討委員会」を設置し、ワーキンググループにおいて、アクティブラーニング、「大学入学共通テスト」への対応について等を検討している。

10月31日に実施した「学力向上WG」では、学力3要素をどう評価していくかということについて話し合いを行った。まず現状分析であるが、学校基本調査では、大学等への進学率は鳥取県で42.3%、全国平均は54.7%と、率はあまり高くはない。逆に、就職者の割合は全国で上位である。大学等進学者に占める国公立大学合格者の割合は全国上位であり、これは、県民一人当たりの雇用者報酬が全国で下位であるということと関係があるのかもしれない。また、各学校で進めているアクティブラーニングへの取組については、これが現行の大学受験に対応する学力等に繋がっているのか、どのような力を生徒につけさせたいのか、そして、何を目指してアクティブラーニングを実施しているのかという目的の部分の部分を学校の中で共有されていないという課題があることがわかった。

さらに、「高大接続における今後の課題」として、評価をどのようにするのかということがある。アクティブラーニングでついた力をどうやって評価するのか、大学入試で、思考力、表現力、判断力、主体性、協働性をどう評価するのか、まだまだ手探り状態ではあるが、学校によっては様々な評価方法を取り入れているところもあり、来年度は更に幾つかの学校で実施してみたいと考えている。

もう一つの問題が、大学入試で実施される英語の外部試験である。文部科学省から幾つかの試験が示されているが、この中のどの試験を生徒たちに受検させるのか、さらにC1以上のレベルの生徒は県外で受検する必要があり、その費用はもちろんのこと、3年生でこれを受検するためには、1、2年生の頃から練習する必要があり、その費用をどうするのかという問題もある。そして、大学受験者が少ない高校では、自分一人だけ、外の会場で、しかもお金を払ってまで国公立大学を受験しようとする生徒がどの程度いるのか疑問である。現在、鳥取県の大学等進学率は全国平均と比べあまり高くはないが、このことにより更なる国公立離れ、大学離れが起きてしまうことも考えられる。

そして、大学に提出する調査書について、生徒の学習履歴の何をどのように蓄積していけば良いのかも、まだ見えていない。大学が何を評価したいのか、逆に高校は生徒の何を評価してほしいのか、ということ

を考えていく必要がある。

- 公立鳥取環境大学では、創立時から「自分の頭で考え、自分で動くことができる学生を育てたい」と考えており、これは、学力の三要素で考えたとき、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性、これらを全て網羅したものであり、新しく始まる「大学入学共通テスト」で求められるものと同じである。そういう意味では、今までの入試でも、ある程度はそういう部分を見てきたことになる。ただ、実際に入試制度が変わったときにどうなっていくのか、わからないことも多く、大学としてもいろいろと考えているところである。
- 英語の外部試験の利用に関しては、大学としても悩ましい部分が多く、それがどういう形で大学に送付されるのかがわからない。また、日本全国でも、ほとんどの受験生がAとBの下だけで終わってしまうという話もあり、現在文部科学省が出している換算表は、その塊をどう評価していくのかわからず、使いにくいものである。
- アクティブラーニングは非常に難しく、教員の力が試される部分もある。現在高校で取り組んでいて、それがどう学力に良い効果をもたらしているのか、その辺りの感触を教えてください。
- アクティブラーニングと学力の相関について確定できるデータは無いが、授業後のアンケートや、授業の様子を見ていても、成果は上がっていると考えている。講義形式に比べ、生き生きとした表情で真面目に取り組んでいる生徒は多い。もちろん講義形式の授業で基礎的な力を教える授業も必要と考えている。

(2) 教員志願者の確保について (県教育委員会)

- 教員志願者の倍率が年々低下しており、低い競争率の中で、人材の資質的な部分を採用試験で見ることが難しくなっている。鳥取県としては、子どもたちをしっかりと指導していく良い人材を数多く発掘したいと考えている。併せて、教員に研鑽を積み、力を高めてほしいと、県教育センターと連携し、研修体系の見直し等を進めている。

公立鳥取環境大学にお願いしたいこととして、理科の免許に限らず、もう少し幅広く科の免許が取れるような教職課程ができないかということ、そして、理科であっても、教員を目指すというしっかりとした志を持った学生の育成をお願いしたい。
- 教員採用試験については、大学受験と似ており、多くの受験者がいなければ良い人材を確保することが難しい。教職課程は、基本的に学生の自由意思で選択する。その中でも、「まちなかキャンパス」で「環スタ」の活動をしている学生は、鳥取県への愛着を持っているのではと教員としては感じている。就職は学生の将来がかかっており、もし学生が教員を目指しており、採用される可能性が高ければ大学としても学生に勧めるのだが、実際に教員になっている学生が少ないとなると、慎重になる。
- 大学としても、理科の教員という意識付けをしっかりやっていきたいと思う。ただ、理科以外の科目となると、教員確保や費用の面でも課題は多く、難しい。
- 大学の状況は理解している。その中で、教員を目指したいという学生に手厚い指導をお願いしたい。県としても、教員採用の説明会を1年生、2年生の早い段階から実施するので、是非これを活用してほしい。
- 教職課程の充実には難しい部分はあるかもしれないが、これは鳥取県の人口の流れにも影響している。高校生で教員になりたい生徒は多く、彼等のほとんどが県外の大学に進学せざるを得ない。県内のどこかの大学がその受皿となっていただくことを真剣に考えなければならず、難しいのはわかるが、今後もこのことは議論させていただきたい。

(3) 県内入学者の確保について (公立鳥取環境大学)

- 平成30年度からの第2期中期目標が認められたところであるが、計画の6年間で県内入学者率25%以上を目指すと言われていた。公立化されて以降の県内入学者率は、概ね14、13%あたりでありと、それを6年間で25%に上げていかなければいけない。大学としては、どこの出身の方でも良いので、良い学生に入ってもらい、良い勉強をしていただき、良い社会人となっていただき、それで皆に認めていただき、次の新しいより良い学生さんに入ってもらい、そういう繰り返しの中で、県内高校の進路指導に本学の良さを生徒に伝えていただき、県内比率を上げていきたいと考えている。
- 今年度の入学者から県内出身学生への経済支援制度を実施している。
- 次年度は県内広報を持続的にすること、普通科高校を視野に入れた県内高校との関係強化等を考えている。

- データの推移を見てみると、AO、推薦の部分では、県内の高校生も、公立鳥取環境大学を向いている生徒が少しずつ増えていると感じる。
- AO、推薦は、現在高校が進めているアクティブラーニングに効果が出やすい部分はあるかもしれない。AO の集団面接では協働的な要素があり、そういう部分を意識して今後も取り組んでいただけると良いかもしれない。

(4) 公立大学法人公立鳥取環境大学第2期中期目標について（県地域振興部教育・学術振興課）

平成24年に公立化して、6年間の第1期中期目標が平成29年度で終了し、平成30年度から第2期中期目標の中で動いていくこととなる。

第1期の評価としては、私学時代は定員割れを起こし就職も厳しいという状況で経営状態も悪化していたが、現在の倍率は5倍程度となり定員は充足、また就職率も98%程度で国公立の平均である。これにより、第1期中期目標は充分達成したと考えている。第2期中期目標は、大学の可能性を切り開く発展期という形で進んでいきたい。その中で、県の課題として「若者定着」があるが、大学としての質を高めるのと同時にこの課題にも取り組んでいただきたいと考えている。

具体的には、県内入学者の増加と、県内就職率の促進であるが、公立環境大学の動きを見ても、県内出身者の6、7割は県内に残るが、県外から来られた学生は1割以下しか県内に残らない。つまり、県内の方に多く入っていただけるほど、県内に残っていただける可能性が高くなると考えている。

また、情報発信力の強化という部分では、「県政だより」で特集を組んだり、「夢ひろば」に環境大学について掲載したりし、また、「市報」では1ページの大きな記事を載せていただいた。そういう形で、大学、県、鳥取市が力を合わせ、県内の保護者、教員、子どもたちに公立鳥取環境大学をPRしていきたいと考えている。

<報告・依頼事項>

(1) 県教育委員会

- ①とっとり未来教師セミナーについて
- ②学生教育ボランティアについて

(2) 公立鳥取環境大学

- ①平成29年度入試状況及び平成30年度入試実施状況（中間）
- ②就職状況について
- ③教育実習の受け入れ及び鳥取県教育委員会からの講師派遣等について
- ④再課程認定申請の概要及びスケジュール
- ⑤教員免許状更新講習の2018年度対応について